

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 心 理 学 ）	氏名	谷 淵 真 也
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
<p>滞日日系ブラジル人児童生徒の学校適応と親子関係の関連 に関するコミュニティ心理学的検討</p>			
論文審査担当者			
主 査	教 授	兒 玉 憲 一	
審査委員	教 授	岡 本 祐 子	
審査委員	教 授	杉 村 和 美	
〔論文審査の要旨〕			
<p>わが国では、1990年代に日系南米人とその家族に定住・永住資格が認められたため、就労目的で来日する日系ブラジル人（以下、ブラジル人）が増加している。それに伴い、家族と共に来日あるいは日本で出生し、学齢期に達して日本の公立学校に通うブラジル人児童生徒が増え、彼らの学校不適応の問題が学校及び地域社会で深刻となっている。</p> <p>本論文は、コミュニティ心理学、特に日本人支援者とブラジル人親とのソーシャルサポート・ネットワーキング（以下、ネットワーキング）の観点から、ブラジル人児童生徒の学校適応と親子関係との関連を検討することを目的とした。具体的には、ブラジル人の親子関係認知の特徴と学校適応感との関連を検討することを第1の目的、親子関係認知及び地域参加の特徴と学校適応との関連を検討することを第2の目的、不登校のブラジル人児童生徒の親子関係認知及び親子のニーズを検討することを第3の目的、高校進学を果たしたブラジル人の学校適応上の困難及び適応に至るプロセスを検討することを第4の目的とした。</p> <p>本論文は、第1章から第3章までの3章で構成されている。以下に各章の内容を記す。</p> <p>第1章「背景と目的」の第1節「移民及び在留外国人児童生徒の学校適応に関する研究」では、欧米における南米系の移民等の児童生徒の学校適応に関する心理学的研究が展望された後で、内外の先行研究の動向や問題点が検討された。その結果、わが国のブラジル人児童生徒の学校不適応には、言語習得や生活習慣上の困難の他に、親の帰国意識や児童生徒の進路意識のあいまいさ、日本人との関わりの希薄さが関連していることが述べられた。また、第2節「滞日日系ブラジル人児童生徒に関するコミュニティ心理学的研究」では、学校適応を支えるネットワーキングに関する内外のコミュニティ心理学的研究が展望された後、ネットワーキングの第1のターゲットとなるブラジル人親を対象としたニーズ評価研究が十分でないことが述べられ、その後本論文の目的が明らかにされた。</p> <p>第2章「滞日日系ブラジル人児童生徒の学校適応と親子関係の関連」では、上述の4つの目的のために行われた研究1から研究4について述べられている。</p> <p>第1節「滞日日系ブラジル人親子の親子関係認知と学校適応の関連（研究1）」では、第1の目的のため、ブラジル人と日本人の親子を対象とした質問紙調査が行われた。その結</p>			

果、ブラジル人親子が日本人親子より心理的距離が近いこと、ブラジル人の学校適応に親子関係認知や親の将来展望が関連していることが明らかになった。

第2節「滞日日系ブラジル人親子の親子関係認知と学校適応、地域参加と学校適応の関連（研究2）」では、第2の目的のため、質問紙調査が行われた。その結果、ブラジル人親は日本人親と比べて学校や地域の行事への参加は少ないが、教師や学校への期待は強く、児童生徒に高学歴を要求していることなど一見矛盾した態度を示していることが明らかになった。

第3節「不登校の滞日日系ブラジル人児童生徒の親子関係及び親子のニーズに関する質的検討（研究3）」では、第3の目的、すなわち不登校のブラジル人児童生徒の親子関係及び親子のニーズを明らかにするため、訪問面接調査が行われた。その結果、不登校事例において、児童生徒の学校不適応状態、特に不登校の理由や支援ニーズに関して親子間で認識のずれがあることが明らかになった。

第4節「滞日日系ブラジル人の高校進学に関する心理的プロセスの質的検討（研究4）」では、第4の目的、すなわちわが国の高校への進学を果たしたブラジル人児童生徒が高校進学に至るまでの学校適応上の困難及び適応のプロセスを、親、学校、地域のサポート資源との関係を主題として検討するため、ブラジル人の高校進学者に対する半構造化面接調査が行われた。その結果、高校進学までに5つの段階があることが明らかになり、このプロセスを促進するためにブラジル人保護者会を通じた支援などネットワーキング上の3つの課題が考察された。

第3章「総合考察」では、本研究の成果と意義が総合的に考察された。また、今後の課題として、ブラジル人の親子関係に関して質問紙調査にとどまらず、スクールカウンセラーなどと協働した臨床心理学的な縦断的研究を行う必要があること、高校進学のプロセスについてブラジル人のサンプルを十分に確保し、ブラジル人特有のプロセスを検討する必要があることなどが考察された。

本論文は、コミュニティ心理学、特にブラジル人のソーシャルサポート・ネットワーキングに関する研究として、次の3点で高く評価できる。

- (1) ブラジル人の学校適応と親子関係認知や地域参加の特徴の関連を検討し、ブラジル人児童生徒の学校適応のための親とのネットワーキングに役立つ知見を初めて明らかにした点。
- (2) これまで学校や地域の支援者による支援が困難であったブラジル人の不登校児童生徒とその親の特徴や主観的ニーズを初めて明らかにした点。
- (3) ブラジル人児童生徒の高校進学のプロセスにおいて、本人、親、学校、地域の支援者の取り組みの相互作用が学校適応を促進することを実証的に明らかにした点。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（心理学）の学位を授与されるに十分な資格があるものと認められる。

平成26年2月18日